青山神明遺跡・多気中町東遺跡（本発掘調査B）

所　在　地　西春日井郡豊山町大字青山字神明地内・小牧市多気東町地内
（北緯35 度15 分46 秒　東経136 度54 分47 秒・北緯35 度15 分53 秒　東経136 度54 分31 秒）

調査理由　道路改良事業（交付金）（一）春日小牧線、（一）小牧岩倉一宮線

調査期間　令和６年５月～12月

調査面積　4,295 ㎡

担　当　者　永井宏幸・池本正明・蔭山誠一・梶田真由

調査地点（1/2.5万「小牧」）

調査の経過　調査は、愛知県建設局道路建設課による県道春日小牧線と小牧岩倉一宮線の道路改良事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、令和6年5月から12月にかけて実施した。調査面積は4,295㎡で、青山神明遺跡は豊山町道52号線の北、町道に沿って西から24H区～24J区、豊山町道1号線の東、町道に沿って24K区、豊山町道101号線の南、町道に沿って24L区として調査を実施した。

多気中町東遺跡は、国道41号と小牧市道多気東町11号線の多気中町東交差点の北東の地点を調査した。青山神明遺跡については、家屋や用水路、道路などにより、24H区は西から24Ha区と24Hb区に、24I区も西から24Ia区～24Ic区に、24J区も西から24Ja区と24Jb区に、24K区は南から24Ka区と24Kb区に分けて調査した。

立地と環境　遺跡は小牧市および春日井市から連なる上部更新統に属する低位段丘上に立地する。青山神明遺跡は段丘の南端にあたり、段丘上を流れる大山川と中江川に挟まれた自然堤防から堤間湿地内にかけて広がる。多気中町東遺跡は同じ段丘上にある中江川の右岸自然堤防の東縁辺部に立地する。調査地の標高は10m～12m前後で、現状は畑地や水田であった。

調査の概要　地表面から現在の耕作土を除去して、地下20cm～70cmにて、古墳時代前期から江戸時代後期にかけての遺構と遺物を検出することができた。

令和６年度 青山神明遺跡 多気中町東遺跡調査区位置図

青山神明遺跡　古墳時代前期の遺構は24Ka区と24Kb区において竪穴建物23棟、土坑10基、溝1条を確認できた。竪穴建物は一辺2m～6m程の平面が隅丸方形から台形、長方形で、深さ3cm～30cmが残存していた。竪穴建物093SIには、中央付近に炉跡と思われる焼土が検出できた。また、下面にて一辺6m前後の幅広周溝の竪穴建物450SIが確認できた。この住居は幅1m程の溝を床面外側に方形にめぐらし、その内側に４本の主柱穴と礫を置いた炉跡を確認できた。24Kb区の南側には、幅2.0m、深さ1.5mの東西方向の溝313SDがあり、集落の外側を区画する溝と思われる。出土遺物は小さい破片の状態で見つかるものがほとんどであったが、土師器の甕、壺、高杯などが確認できた。

続く古墳時代後期には、24Ka区の南側にて竪穴建物2棟が重なって確認された。竪穴建物は、一辺が2m～3m程の隅丸方形の平面のもので、竪穴建物134SIは深さが約40cmと深いものであった。

奈良時代～平安時代には、24Ha区にて竪穴建物10棟、溝1条、土坑1基が確認できた。竪穴建物の形態は古墳時代のものと似ており、2m～4m程の隅丸方形から台形、長方形の平面のもので、深さは3cm～10cmが残っていた。

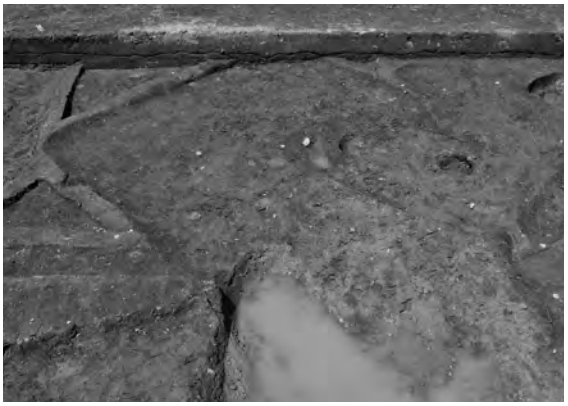
平安時代末～戦国時代の遺構は、谷状地形にある24Ia区～24Ic区を除くほぼ全ての地点で確認され、溝17条、掘立柱建物1棟、竪穴状土坑1基、井戸3基、土坑墓1基、溝22条、土坑10基、多数の柱穴を確認した。24Ka区では、東西の比較的大規模な溝の間に掘立柱建物1棟と柱穴となる土坑が多数見つかり、掘立柱建物が連綿と存在したものと思われる。

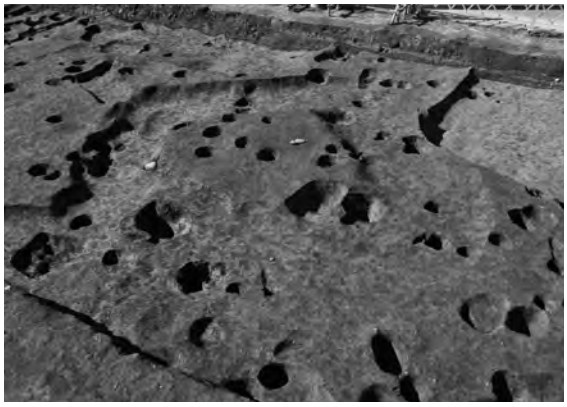
これらの掘立柱建物に隣接して、竪穴状土坑1基、土坑墓1基を確認した。24Ka区西側で検出された竪穴状土坑120SIは、東西3.5m以上、南北3.6mの台形の平面のもので、掘った穴を一度埋めて黄色土で床面を設けていた。床面には焼けた礫や山茶碗が出土した。また、24Ka区南側にある035SKは、長さ2.3m、幅0.75m、深さ35cmの平面隅丸長方形のもので土坑墓の可能性がある。

井戸は24Hb区に1基、24Ja区に1基、24Jb区に2基、24Ka区に1基が確認され、全て素掘りの井戸であった。これらの井戸は、掘立柱建物となる柱穴が分布する範囲より外れてあり、同時期の溝に重複、隣接する地点に確認された。

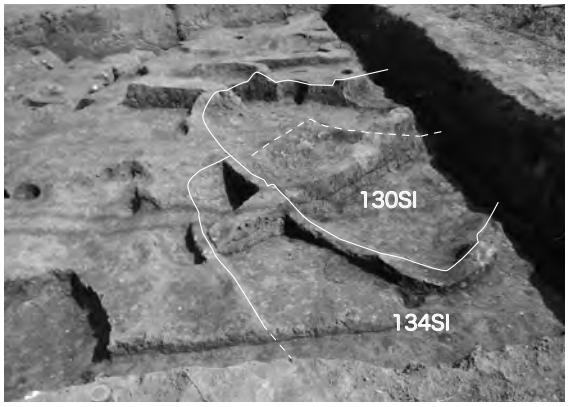
江戸時代後期～近代の遺構には大小の溝が認められ、24Ha区に8 条、24Hb区に1条、24Jb区に4条、24Kb区に5条が確認できた。24Ha区で確認された溝は幅0.3m～0.6m程の浅い溝で、畑などの耕作に関係する溝と思われる。その他の調査区で見つかった溝は比較的大規模なもので、水田や畑の耕作に伴う用水路と思われる。

24Ha 区全景（北より）

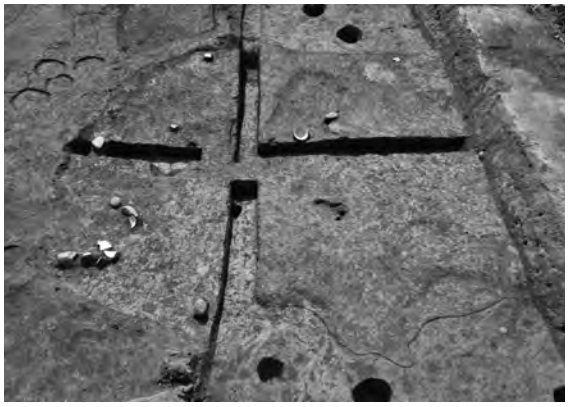

24Ha 区 045SI（南より）



24Ka 区 450SI（北東より）

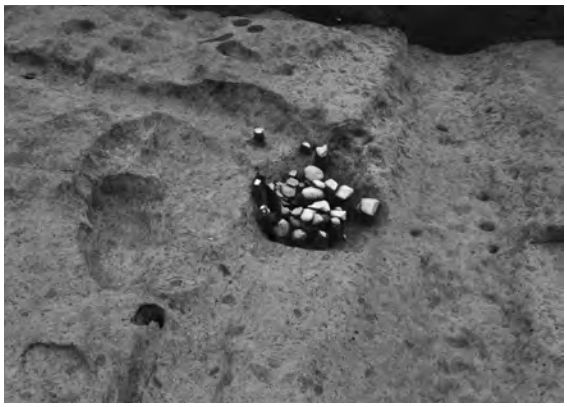


24Ka 区 130SI・134SI（西より）



24Ka 区 120SI（北より）

24Ka 区 023SK 磨製石斧出土状況（北西より）



24Ka 区 520SE 遺物出土状況（東より）

24Kb 区全景（東より）

24Kb 区 313SD（北東より）

24L 区東部（北東より）

24Ha 区 034SD・054SD（北西より）

24Hb 区西部全景（北より）

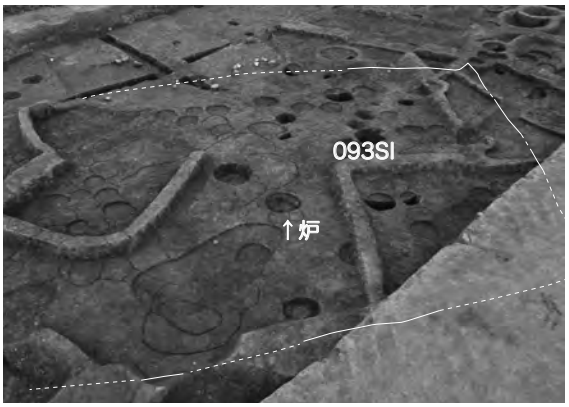
24Hb 区 118SK 遺物出土状況（北西より）

24Hb 区 135SE 断面（西より）

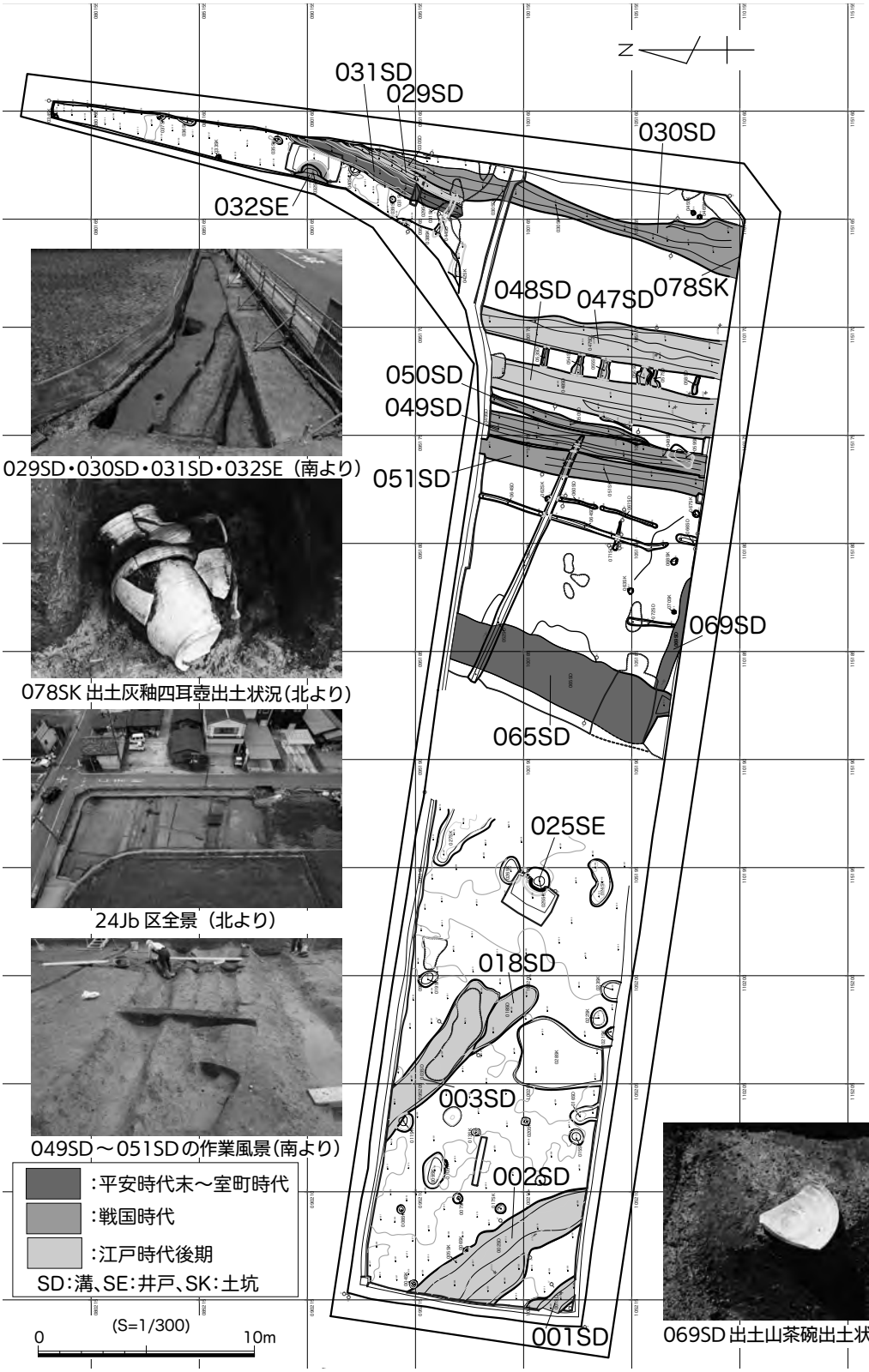
24Ia 区東部全景（東より）

24Ja 区全景（北より）

24Ka 区南部 2 面全景（北東より）



24Ka 区 093SI（南東より）

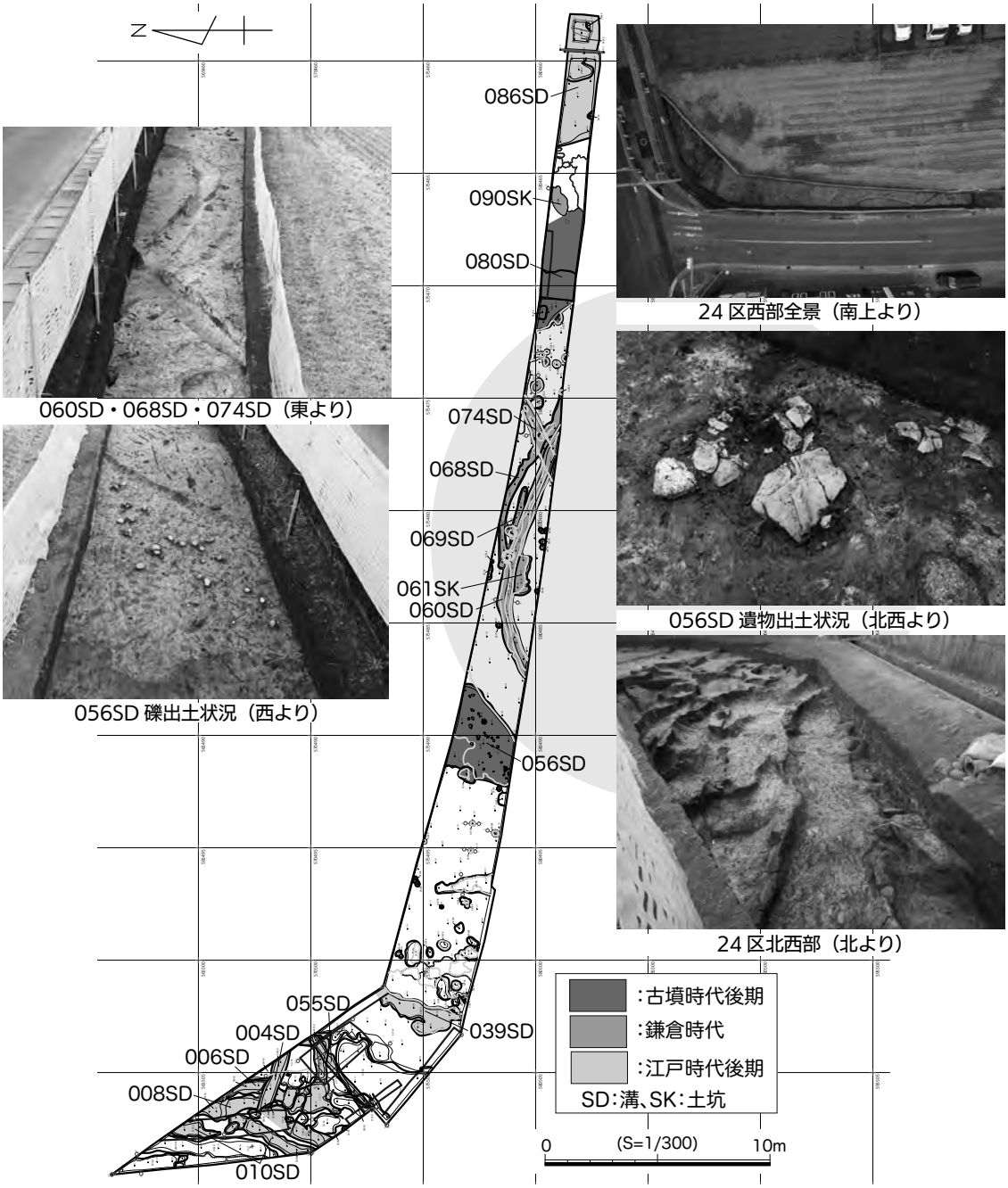


青山神明遺跡 24Jb 区遺構図（1：300）

多気中町東遺跡　古墳時代後期の溝2条と鎌倉時代から江戸時代にかけての溝7条を確認できた。古墳時代後期の溝2条からは、6世紀頃の円筒埴輪や須恵器、葺石の可能性のある礫が出土し、径22m前後の円墳の一部にあたるものと思われる。

ま と め　今回の調査により古墳時代前期の竪穴建物からなる居住域が青山神明遺跡24Ka区から24Kb区にかけてあり、古墳時代後期には24Ka区の南側に居住域の北端部が、多気中町東遺跡において円墳の存在が確認できた。奈良時代～平安時代には、Ha区において竪穴建物からなる居住域がみつかり、平安時代末～戦国時代にはHa区、Hb区西部、Ja区・Jb区・Ka区・L区東部・多気中町東遺跡24区において井戸・土坑・溝など居住域を確認することができた。江戸時代後期には水田や畑など耕作に伴う溝や用水路と思われる溝が確認できた。

（蔭山誠一）



多気中町東遺跡 24 区遺構図（1：300）